（株）トーセン

代表取締役

東泉（とうせん） 清寿（せいじゅ） 氏

森林資源による地方創生

矢板市に本社を置く大手製材業のトーセンは、２０２３年に取得したシャープ栃木工場跡地に大規模な自社工場を整備し、昨春から操業を始めた。現在は約６割の稼働ながら、製材から加工、燃料用ペレットの生産までを一貫して行い、２年後には年間12万㎥の丸太を消費するフル稼働を目指す。

「戦後に植林された杉、ヒノキが成熟期を迎えているにも関わらず、皆伐・植林が進まず、材が大径化している現状があります。従来外材が多かった横架材（梁・桁）を生産することで大径材を活用し、更に製材の副産物であるオガを活用したペレットを生産するなど、森林資源の循環とフル活用のモデルを構築します」と強調する。

昨年３月、菓子メーカーのシャトレーゼホールディングス（甲府市）に新工場敷地の一部、約６ヘクタールを譲渡した。北関東の一大生産拠点になると、大きな期待を寄せる。「敷地内には、15万４千Ｖという大規模な特別高圧設備があり、大容量の電力を使用する事業誘致に有利です」と積極的な姿勢を見せる。

新工場は現するため、英語の頭文字を組み合わせ「デカーレ矢板」と命名。「工場を誘致することで雇用創出と地域経済の活性化に貢献でき、さらに大径材の活用とそれによる皆伐・植林の推進、そしてペレットなど再生可能エネルギーの推進により、脱炭素につながります。木材乾燥に必要な熱エネルギーは１００％自給しており、化石燃料は使用していません。ペレットはハウス農業や温浴施設など多業種に供給します」。昨年には新工場整備や木材の需要拡大の実績が高く評価され、県経済同友会から24年度優秀経営者賞を贈られた。

少子化で住宅着工数が減少傾向にあり、資材や電気代などコスト高といった課題に直面している製材業界だが「新工場を安定化させ、外材より安い、国産の横架材を市場に浸透させていきます」と前向きに語る。

「デカーレ」とはdecarbonization（脱炭素）とregion revitalization（地方創生）の文字をとった造語です

人と、木と、未来
TOHSEN
株式会社トーセン

〒329-2511　矢板市山田67
☎0287・43・8379